

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

青山学院大学

2019年6月～7月号

<https://www.aoyama.ac.jp/>



特集

活躍する青学の理数系女子！

特集

2018年度 学生表彰&体育会表彰

TOPICS

東京農業大学と包括連携協定を締結

アポロ11号月面着陸 50周年記念講演会を開催



No.93

AGU Lecture

文学部 英米文学科

稲生衣代ゼミ

活躍する青学の理数系女子！

近年、「リケジョ」とも呼ばれ、企業からも注目が集まる理数系女子。今回は国内外トップレベルの研究設備が整った相模原キャンパスで学ぶ理数系女子学生に、現在の研究内容や今後の抱負などについてお話を聞きました。



社会のニーズが
高い最先端技術を
進化させる

今注目される最先端技術！

ICT※の活用に必要な 電波吸収体と シールド材を研究

平山 実花さん

理工学研究科 理工学専攻
電気電子工学コース 博士前期課程 2年
神奈川県立秦野高等学校出身

現在は電波吸収体の 薄型化と小型化に取り組む

ICTを支える電波吸収体と電波を遮断するシールド材が私の研究テーマです。生産性の向上や省力化のためにICTの活用が大きな注目を集めていますが、ICTの技術はとても幅広い分野から構成されており、それらは電波での通信によって支えられています。しかし、電波は周りの構造物に反射するので、同一の発信源から受信側に複数の電波が届いてしまう障害が起こったり、同じ周波数の電波が干渉し合ったりするため、通信の信頼性を高めるためには電波吸収体や電波シールド材で対策をする必要があります。

そして、電波吸収体には薄型化や小型化が求められています。そこで私は今、薄くてたくさんの電波を吸収できる金属パターンを用いて、コンパクトな電波吸収体の設計手法を確立しようと研究を進めています。

研究では、予想した通りの結果が得られたときが本当に嬉しいですね。新しい

知識を得て自分が成長したと思ったときにも達成感があります。

興味を持ったきっかけは、 電波無反射室に入ったこと

子どもの頃から家電やロボットが好きだったため、電気電子工学科に進学しました。そして、3年次の研究室訪問で電波無反射室に入らせていただいたときに、「面白そう！」と思ったことから電波吸収体に興味を持ちました。

橋本先生の研究室では、一人一人が異なる研究テーマに取り組んでいます。先生や先輩の指導がとても手厚い点が大きな魅力だと思います。大学院に進む学生も多いので、基本的に一人の学部生に一人の大学院生が付いて指導にあたります。また、橋本先生は学生が成長できるように環境を整えてくださり、卒論添削などを丁寧に指導してくださいます。今後は論文の執筆に力を入れ、今までの研究成果を目に見えるものとして残したいと思っています。

電波関係の分野では 女性の技術者が少ないので、 平山さんの活躍を期待しています！



理工学部 電気電子工学科 橋本 修教授

「生体・環境電磁工学」を研究テーマとし、電子機器や人体を電波から保護する方法や、不要な電波を出さないための研究を進めています。多くの企業との共同研究の成果が、製品として実用化されています。論文や国際会議で研究成果を多数国内外に発信したり、学生のプレゼン能力や英語力が高いのも特長です。数多くの研究者を輩出し、企業へ就職した卒業生も電機メーカーや情報通信会社など幅広い業界で活躍しています。

〔2018年度までの修了者数〕
博士前期課程200名、博士後期課程28名



斬新なアイデアをカタチに！

女性ならではの視点を生かし、 メーク提案のシステムをつくる

金谷 智恵さん

社会情報学部 社会情報学科4年
東京都立福生高等学校出身

これまでにない
新しい視点での
サービスを開発



自分の経験と視点で、 女性に喜ばれるシステムを

情報系をはじめ、文理を問わず幅広い知識を得られ、文系でもプログラミングを学べることから社会情報学部を選びました。現在は宮治裕先生のゼミに所属しており、卒業研究に取り組み始めたところです。

私の研究は、自分に似合うメーキャップの方法を提案してくれるシステムの開発です。システムのアイデアをゼミで話したところ、女性から大変評判が良かったので、研究テーマにすることを決めました。メーキャップに関することなので、女性だからこそできる研究だと思っていますし、普段からメークをしている経験や視点を生かしてシステムをつくっていきと思っています。

宮治先生のゼミでは、自分でやりたいテーマを決め、主体的に進めていきます。宮治先生からはいつも適切なアドバイスをいただける上、努力した分だけ褒めて

くださるのでモチベーションも高まります。

ゼミ生と先生の距離が近く、 成長できる環境も整っている

ゼミの同期には女性が多いですし、インターンシップ先の企業では、エンジニア職の女性は私一人ですが、周りの方が親切にサポートしてくださったので、女性だから苦労したということはありません。宮治先生のゼミは、先輩後輩問わず仲が良く、先生とも仲が良いというのが大きな特長だと思っています。自主的にゼミ生だけで勉強会を開いてプログラムの知識を深めたり、先生が研究の参考になる本を貸してくださることもあり、学ぶ環境が充実していると感じています。

今後は女性としての視点も生かして研究に力を入れていきと思っています。また、将来エンジニアになる予定なので、卒業までさらに技術力を高めていきたいとも思っています。

何事にも一生懸命に
取り組む姿勢が素晴らしいです！
なりたい自分になれるよう
頑張ってください。



社会情報学部 社会情報学科 宮治 裕教授

宮治 裕ゼミナール

宮治裕教授のゼミでは、「人々の生活をサポートする工学システム」の研究を進めています。機械学習やIoT※¹、xR※²など最新の技術を活用し、社会の課題やニーズに応える情報サービスを、学生たちが自ら考えて開発しています。卒業生の多くが幅広い分野のエンジニアとして活躍し、現在ではゼミの卒業生が100名を超え、OB・OGを対象とした勉強会やイベントが積極的に開催されています。



※1 IoT…Internet of Thingsの略。あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称。 ※2 xR…xRealityの略。VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、SR(代替現実)の総称。

NEWS

理数系学生への支援制度も充実化！

2019年4月より「若手研究者育成奨学金(給付型)」と「国際学会発表支援制度」を新設し、「データサイエンティスト育成プログラム」を開始しました。「若手研究者育成奨学金」は博士後期課程や一貫制博士課程に優秀な学生を受け入れることを目的とした給付型奨学金。「国際学会発表支援制度」は国際学会発表のための渡航費補

助を目的としています。「データサイエンティスト育成プログラム」は理工学研究科博士前期課程の学生を対象とし、「データを読み解く洞察力」「先端的な技術を実践する応用力」「分析結果の妥当性を判断する評価能力」を身に付け、あらゆる産業で求められ活躍できる実践的なデータサイエンティストを育成します。

※ICT…Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

2018年度 学生表彰&体育会表彰

2018年度に学問およびスポーツ分野において活躍した学生、団体が表彰されました。受賞者を代表して、中村まづるゼミの皆さんと、水泳部の高津奈々さんに受賞の感想などについてお聞きしました。



左から由水さん、小林さん、高橋さん、中村教授、川端さん、丹野さん

受賞できたのは、 先生や先輩の支えがあったから

中村先生や先輩から適切なアドバイスをいただくことで、公共選択学会で受賞することができました。これは、チーム全員で得た賞だと思っています。誰か一人でも欠けていたら、論文を完成させることも、質の高いプレゼンテーションをすることもできませんでした。

論文について考え始めた頃は、「日本の食料自給率をどのように向上させるか」をテーマにしようと思っていましたが、農業について調査を進めるうちに、日本の農業のあり方そのものに問題意識を持つようになりました。そこで、「最新技術を活用しながらいかに農業を効率化していくか」「農業の産業構造をどの

ように変えていくか」に焦点を当てることにしました。そして、実証分析により問題意識の根拠を明らかにし、最新のモデルを用いて政策提言を導きました。限られた時間の中で、分かりやすく独創的なアイデアを盛り込むことに注力し、一人一人が自分の役割を果たし、チーム全員で論文を書き上げることができたと思っています。

論文を書き上げることで、 大きく成長できた

今回の論文作成を通して、チームで論文を執筆する難しさも知りました。それぞれの意見に折り合いをつけていく難しさももちろんありましたが、他のメンバーの作業が滞りなく進められるように短時間で自分の作業を進めなくては

農業のあり方への疑問から 論文作成がスタート。

経済学部 経済学科 **中村まづるゼミナール**

高橋 翔智さん／由水 壮典さん／川端 春音さん／
小林 瞳さん／丹野 希美さん

学生
表彰

【受賞理由】

経済政策論、公共選択論をテーマとする中村まづるゼミ。3年生の学生5名が「日本社会において、適切なガバナンスを可能とする制度をいかに設計していくべきか」をテーマにしたプレゼンテーションで、「公共選択学会 第21回学生の集い」の優秀賞を授与されたことが評価され、学生表彰を受賞しました。

けない苦労もありました。難局を乗り越えることによってチームでプロジェクトを進める力を身に付けることができました。なによりメンバー同士の絆が深まったと感じます。そして、論文の中で根拠の弱いところなどを熟考して修正していくことで、論理の矛盾や欠落を発見して修正する能力も習得したと思います。

中村先生や先輩に支えていただいたので、今後はゼミ活動をさらに良いものにしていきたいと思っています。全員にとって居心地の良いゼミにし、そして統計学や計量経済学などの数理的要素の強い学問知識をさらに習得し、より質の高い論文等を出せるようにすることで、ゼミ生皆が楽しみながら研究を進め、公共選択学会などでも良い結果を残し続けられるようにしていきたいです。

ミ生に対して、中村まづる教授は「これまで積み重ねてきた知識やノウハウを、自分たちの形に進化させたことを頼もしく思っています。この1年間の成長を今後の自信につなげてください」とコメントしています。



指導教員・中村まづる教授より

経済問題を解決するための提言を行うだけでなく、その政策によって影響を受ける人々の理解を得るためにどのように実現していくかも分析の対象とする中村まづるゼミ。今回学生表彰を受賞したゼ



水泳部の制度のおかげで 結果を出すことができた

青山学院大学には多くの優秀な選手がいる中、最優秀賞をいただくことができて本当に光栄です。

幼稚園から水泳を始め、青山学院の高等部に進学したときからフィンスイミングにも挑戦することにしました。フィンスイミングの魅力はなんといっても、水の中を非常に速いスピードで進めることで、まるでイルカになったような気分

泳げます。フィンスイミングにおいて、50mと400mでは泳ぎ方やペース配分が異なります。距離ごとの適切な体の使い方やペースを身に付けられたことが日本新記録につながったと思っています。また、青山学院大学の水泳部は、部活練習とク

大学在学中に、 世界選手権大会で入賞したい。

高津 奈々さん

教育人間科学部 心理学科1年 水泳部
東京・私立青山学院高等部出身

体育会
表彰

【受賞理由】

第30回フィンスイミング日本選手権大会で50mアブニア(水中を無呼吸で泳ぐ種目)、200mサーフィス(水面を進む種目)、400mサーフィスの全てで日本新記録を出して優勝。日本代表として世界選手権大会にも出場した高津奈々さんが、その活躍を評価されて最優秀賞を受賞しました。

ラブチームの練習を自由に選択して参加できます。この制度があったからフィンスイミングで結果を出すことができたと思いますし、フィンスイミングと競泳の両方に取り組みたい私にとって、水泳部は理想の環境と言えます。

在学中に、世界を舞台に 活躍できる選手になる

日本新記録で優勝できた日本選手権大会はもちろんですが、セルビアで開催された第20回フィンスイミング世界選手権大会と第5回フィンスイミング大学世界選手権大会も強く印象に残っています。初めて参加した世界選手権大会でしたし、海外の選手のレベルの高さも知ることができました。同世代が活躍しているのを

見て大きな刺激を受けましたし、自分も努力すれば彼女たちに追いつける可能性が十分にあるとも感じました。

今後の抱負は、大学在学中に競泳の日本選手権大会で入賞すること、そしてフィンスイミングの世界選手権大会で入賞することです。第2のオリンピックと言われるワールドゲームズに出場し、上位に入りたいとも思っています。また、これからも大学での練習環境の整備に期待をして、クラブチームと両立しながら邁進していきたいと思っています。



第20回フィンスイミング世界選手権大会レース前

PICK UP

新しい大学スポーツイベント「The Ivy Green Match」を開催

2018年7月に株式会社電通と締結した「スポーツ分野における教育研究に関する包括協定」に基づき、「学生が自らの大学を応援する」文化を醸成するプログラムの研究・開発を実施。その一環として、新しい大学スポーツイベント「The Ivy Green Match」を実施し、2019年4月2日(火)に相模原キャンパスでバレーボール部(女子)、4月4日(木)に青山キャンパスでバスケットボール部(男子)の試合を行い、入学直後の新入生を中心に自分の大学を応援する機会を設けました。

試合会場では観戦者全員にビブスを配るなど、会場全体を青山学院のスクールカラーの濃緑(Ivy Green)にカラーリング。また、プロ仕様の設営・演出を導入するなど、NCAA(全米大学体育協会)並みのイベント空間となるように演出し、試合終了後には、学生に大学への帰属意識の変化や態度変容等について調査を行いました。今後も電通と協力して、帰属意識向上のための研究・開発を進めていきます。



写真提供: 体育会学生会本部青山スポーツ

SHIBUYA SHOOTOUT 2019 特別パネルディスカッション開催

渋谷区の基本構想が掲げる「見る、する、ささえる、応援するスポーツ」の機会を提供するため、2017年からサンロッカーズ渋谷の3月のホームゲームを、「SHIBUYA SHOOTOUT」と称して青山学院記念館(大学体育館)で開催しました。

これに関連して、特別パネルディスカッション「産官学で創るサンロッカーズ ーネクストステップ、未来に向け

て」が本学で2019年3月9日(土)に開催されました。基調講演として、一般社団法人アリーナススポーツ協議会の村林裕氏が新たなコミュニティづくりなどの将来構想について講演。次に同テーマで、長谷部健渋谷区長、岡博章サンロッカーズ渋谷代表取締役、三木義一学長がパネルディスカッションを行い、聴衆との意見交換等、有意義なひとときとなりました。



東京農業大学と包括連携協定を締結

2019年2月25日(月)に東京農業大学と「連携・協力に関する基本協定」を締結しました。青山学院大学で行われた調印式では、高野克己学長(東京農業大学)と三木義一学長(青山学院大学)が協定書に署名し、固く握手を交わしました。

共に渋谷にゆかりのある大学として結んだ本協定によって、両校の資源を活用し、相互の持続的な発展や多様な価値観に基づく新たな価値創造に寄与することを目

指し、さまざまな取り組みを行っていきます。

●両大学の連携・協力を推進する事項
 学生の交流／単位互換／教育指導研究／プロジェクト研究およびシンポジウム等の共同実施／学術研究資料・刊行物・情報等の活用／大学の施設・設備の利用等



高野克己学長(左)と三木義一学長

国際シンポジウム「文学による日米の架け橋ーケネス・レクスロス、翻訳、戦争」を開催

2019年3月8日(金)・9日(土)に、文学部日本文学科主催・英米文学科協力の国際シンポジウム「文学による日米の架け橋ーケネス・レクスロス、翻訳、戦争」"Rethinking the Legacy of Kenneth Rexroth: Literature, Translation, War"を青山キャンパスにて開催しました。日本文学科は、教員と学生による、海外の大学との「文学交流」を積極的に進めています。このシンポジウムでは、太平洋戦争時に日系アメリカ人を支援し、戦後に日本文学の翻訳に努

める一方、アメリカ文学に新潮流を巻き起こしたアメリカの現代詩人レクスロス(1905 - 1982)が提起した、①翻訳、②文学と戦争の関係という普遍的問題を、英米文学科の協力を得つつ、日米双方の視点から考察しました。

1日目は、17号館17511教室で日米の研究者による国際学術シンポジウム(約100人来場)を実施しました。田口哲也氏(同志社大学)の基調講演を皮切りに、①については、Jeffrey Angles氏(西ミシガン大学)、Trane DeVore氏(長野県立大学)、Michael Emmerich氏(University of California, Los Angeles 以下UCLA)、Torquil Duthie氏(同)、小松靖彦(日本文学科)、山崎藍氏(日本文学科)が、②については、John Solt氏(詩人、エドウィン・O・ライシャワー日本研究所研究員)、ギブソン松井佳子氏(神田外語大

学)、Mary Knighton氏(英米文学科)、片山宏行氏(日本文学科)、西本あづさ氏(英米文学科)が、レクスロスの問題提起に応じました。伊藤比呂美氏(詩人・早稲田大学)と青木映子氏(ライター・翻訳家)がコメンテーターを務めました。最後に7号館720教室において、ギブソン聡クリストファー氏のチェロの伴奏で、ギブソン松井氏がレクスロスなどの詩を朗読しました。

2日目は、14号館第18会議室で、声の文化としての詩についての伊藤氏の講義の後、伊藤氏とAngles氏による、身体の底からの力漲る、自作の朗読が行われました。続いて、日本文学科・英米文学科、UCLAの学生による太平洋戦争についての詩の朗読(協力してそれぞれの翻訳も作成)。最後に、①・②について本学とUCLAの大学院生によるシンポジウムを実施しました。

絶対的自由を求め続けたレクスロスの文学の力と、そのスピリットを受け継いでいくことの大切さを学んだ2日間でした。

(文学部 日本文学科教授 小松 靖彦 記)



「詩の朗読会」にて：伊藤比呂美氏(上列左)、Angles氏(上列左から2番目)、小松靖彦(上列右)、日本文学科・英米文学科とUCLAの学生

アポロ11号月面着陸50周年記念講演会を開催

米国大使館企画・共催のもと、本研究室主催、地球社会共生学研究センターの協力を得て「アポロ11号月面着陸50周年記念講演会」を開催しました。

今から50年も前、米国は「地球」から「月」への有人着陸を成功させました。

会場のスクリーンに、月面上での「人類の初めての一步」の足跡が表示された瞬間、当時のテレビで生中継されたときの感動が蘇るとともに、アメリカの偉大な功績に改めて感銘を受けました。

今回の講師James L. Green博士は、元NASA(米国航空宇宙局)の有人・ロボット探査のリーダーであり、現在NASA長官の首席科学アドバイザーを務めておられ、この分野のパイオニアです。講演では、アポロ計画の成果と試みが、月の内部構造等の新たな知識を人類にもたらしたことなどについてお話をしていただきました。



講演中のJames L. Green博士

ました。

当日は、地球社会共生学部の学生を含む多くの本学学生と日本の宇宙開発に関わる方々、宇宙に興味のある高校生等約200名にお越しいただきました。質疑応答では、学生から「はやぶさ2」の逆噴射のような鋭い質問も出され、盛況のうち

に講演会を終えました。

米国大使館並びに本学の関係スタッフの方々に、心より感謝申し上げます。

2019年3月13日(水)青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて
 (地球社会共生学部教授 岩田 伸人 記)

教育人間科学部創立10周年記念シンポジウムを開催

人間を理解するには、本や文字だけでなく、言葉にならない行動や外見、シンボルやアイコンなどを読むことも欠かせません。そこで、教育人間科学部創立10周年を記念して「リーディングのこれから」と題したシンポジウムを開催しました。

第一部のトークショーでは、作家のあさのあつこ氏が「本を読むことは、違う世界があなたにつながっていることを教えてくれる」とお話しされました。

第二部のパネルディスカッションでは、まず本学部教授の杉谷祐美子氏が「大学生に必要なアカデミック・スキルとしてのリーディング」というテーマで実践報告をしました。次に国立国語研究所教



トークショー中のあさのあつこ氏

授の横山詔一氏が「社会人のリーディング・マインド」として、自分の人生の記憶をリーディングする意義について、慶應義塾大学准教授(現教授)の安形麻里氏は絵画の中で読書はどのように描かれてきたのかという視点から、リーディングが社会の中で持っていた意味について読み解かれました。豊田工業高等専門学校教授の西澤一氏は、英文



第二部のパネルディスカッション

のリーディング力向上には、英文を英語のまま理解することが必要で、のためにはやさしい英文をある程度の速さで多読することが有効とお話しされ、最後に全員でリーディングの持つ意味について意見交換をしました。

2019年3月16日(土)青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて
 (教育人間科学部長・教育人間科学部心理学科教授 遠藤 健治 記)

2019年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
三木 義一
専門分野：税法
任期：2015年12月～ 2019年12月



副学長(学務担当)
阪本 浩
専門分野：古代ローマ史
任期：2017年12月～ 2019年12月



副学長(学生担当)
外岡 尚美
専門分野：アメリカ演劇
任期：2017年12月～ 2019年12月



副学長(青山キャンパス総務・財務担当)
田中 正郎
専門分野：流通マーケティング
任期：2017年12月～ 2019年12月



副学長(研究・産学連携担当/相模原キャンパス総務・財務担当)
橋本 修
専門分野：生体・環境電磁工学
■任期：2017年12月～ 2019年12月



副学長(国際・広報担当)
菊池 努
専門分野：国際政治経済学
■任期：2018年12月～ 2019年12月



文学部長・文学研究科長
伊達 直之
専門分野：英語詩およびイギリス文学・文化研究
■任期：2018年4月～ 2020年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
遠藤 健治
専門分野：心理学
■任期：2019年4月～ 2021年3月



経済学部長・経済学研究科長
中村 まづる
専門分野：経済政策
■任期：2018年4月～ 2020年3月



法学部長・法学研究科長
大石 泰彦
専門分野：メディア法、メディア倫理
■任期：2018年4月～ 2020年3月



経営学部長・経営学研究科長
三村 優美子
専門分野：マーケティング、流通
■任期：2018年4月～ 2020年3月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
内田 達也
専門分野：応用ミクロ経済学
■任期：2018年4月～ 2020年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
茂 牧人
専門分野：近・現代ドイツ哲学、宗教哲学
■任期：2018年4月～ 2020年3月



理工学部長・理工学研究科長
長 秀雄
専門分野：レーザー超音波、非破壊検査工学
■任期：2018年4月～ 2020年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
宮川 裕之
専門分野：情報システム学
■任期：2018年4月～ 2020年3月



地球社会共生学部長
升本 潔
専門分野：国際協力論
■任期：2019年4月～ 2021年3月



コミュニティ人間科学部長
鈴木 眞理
専門分野：社会教育学
■任期：2019年4月～ 2021年3月



国際マネジメント研究科長
中里 宗敬
専門分野：ファイナンス
■任期：2019年4月～ 2021年3月



法務研究科長
藪口 康夫
専門分野：民事訴訟法
■任期：2018年4月～ 2020年3月



会計プロフェッション研究科長
小西 範幸
専門分野：国際会計論
■任期：2019年4月～ 2021年3月

2019年度 保証人の方対象説明会について

キャンパス見学会(新入生の保証人の方を対象)

青山キャンパス…6月15日(土)午後
相模原キャンパス…5月25日(土)午後

学業説明会、進路・就職説明会

首都圏にお住まいの保証人の方を対象に5～6月の土曜日に実施します。

ペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)

首都圏以外にお住まいの保証人の方を対象として、大学教職員が
全国の拠点都市に伺って大学の近況をお伝えします。開催日程は表の通りです。

地区	開催日	開催場所	地区	開催日	開催場所
佐賀	6月 1日(土)午前	ホテルニューオータニ佐賀	札幌	7月 7日(日)午前	京王プラザホテル札幌
広島	6月 8日(土)午前	ホテルグランヴィア広島	静岡	7月 7日(日)午後	ホテルアソシア静岡
甲府	6月15日(土)午後	常磐ホテル	名古屋	7月13日(土)午後	ヒルトン名古屋
熊本	6月22日(土)午前	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ	京都	7月13日(土)午後	ホテルグランヴィア京都
高崎	6月23日(日)午後	ホテルメトロポリタン高崎	神戸	7月14日(日)午前	ANAクラウンプラザホテル神戸
松山	6月23日(日)午前	東京第一ホテル松山	宇都宮	7月15日(月・祝)午後	宇都宮東武ホテルグランデ
福島	6月29日(土)午後	ホテル福島グリーンパレス	那覇	7月20日(土)午前	沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
富山	6月30日(日)午後	ANAクラウンプラザホテル富山	盛岡	7月27日(土)午後	ホテルメトロポリタン盛岡
福岡	7月 6日(土)午前	ソラリア西鉄ホテル福岡	仙台	7月28日(日)午前	ホテルメトロポリタン仙台

対象の方へ5月上旬に郵送したご案内を参照の上、本学ウェブサイトよりお申し込みください。 **問い合わせ先：庶務部庶務課**
実施詳細の最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。 **TEL：03-3409-8568**

**大学学費
後期納付のご案内
(学部)**

【納付期限】2019年9月30日(月)
2018年度以前入学者…4月中旬に発送した学費振込依頼書の後期分をご利用ください。
※教職・諸資格申請者は7月18日(木)に後期分と教職諸資格課程科合算もしくは教職諸資格課程科の学費振込依頼書を送付予定です。
2019年度入学者…7月18日(木)に後期分の学費振込依頼書を送付予定です(後期分学費未納付者および教職・諸資格申請者)。
※大学院の学費納付は大学院要覧参照

2018 年度 学位授与式(卒業式)

2019年3月25日(月)、青山学院記念館において学部の学位授与式が挙行され、約4,000名が門出を迎えました。山本与志春院長の式辞、三木義一学長の告辞に引き続き、坂本由喜子校友会大学部会会長から祝辞を賜りました。壇上では各学部の総代に学位が授与され、答辞が朗読されました。

大学院の学位授与式は青山学院講堂にて行われ、各研究科の総代と博士に学位が授与され、答辞が朗読されました。同日ガウチャー記念礼拝堂では午前と午後にそれぞれ塩谷直也大学宗教部長と、高砂民宣大学宗教主任の説教による卒業礼拝も行われました。



2019年度 入学式

2019年4月1日(月) 青山学院記念館において、学部・大学院合同の入学式が午前、午後の2回に分けて挙行されました。学生団体による合唱『希望と祈りと』の後、山本与志春院長の式辞、三木義一学長の告辞、中尾かおり後援会会長からは祝辞を賜りました。式典終了後はアナウンス研究会の司会進行のもと、応援団と吹奏楽バントワリング部の協力でカレッジソングの歌唱指導も行われ、プログラムは終了しました。



青山学院大学教育振興資金 保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より本学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2018年度募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。今号では2018年9月6日以降にご寄付いただきました皆さま方を掲載の対象としております。

2018年度は、引き続き教育研究環境の充実に向け、障がい学生支援センター開設、アカデミックライティングセンターの設置、「青学TV」などコンテンツの充実等、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組みました。この場を借りまして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 233名 ご芳名掲載者: 71名 匿名者: 162名 ご芳名掲載対象期間: 2018年9月6日から2019年4月17日までのご寄付者			
あ	秋山 文孝 様 荒井 英夫 様 荒川 秀雄 様 い	か	加賀野井 聖二 様 加瀬 三男 様 川口 健次 様 河野 剛 様 き
	池田 浩二 様 石鍋 聡 様 出口 誠 様 伊藤 昭彦 様 伊藤 和宏 様 伊藤 一美 様 岩崎 徳之 様 岩田 大史 様 う		と
	梅津 知敏 様 お	く	な
	大岩 広人 様 大木 好治 様 大嶋 俊平 様 岡田 将子 様 小川 千瑠 様 小椋 健史 様 小澤 秀臣 様	こ	の
		さ	は
			濱野 多喜生 様 林 和彦 様 ひ
		し	土方 圭以子 様 ふ
		せ	藤根 千鶴 様 ほ
		た	星田 大輔 様 堀内 秀俊 様 ま
			松村 康成 様 松本 賢芳 様 丸峯 徹伸 様
			み
			三木 良太郎 様 實籾 勝 様 も
			望月 俊孝 様 森野 一彦 様 や
			山根 久美子 様 山本 晃 様 山本 昌克 様 湯浅 晃一 様 ゆ
			横山 俊彰 様 よ
			吉川 正之 様 吉村 和博 様 渡部 一己 様 わ
			法人寄付 株式会社ギミック 代表取締役 横嶋 大輔 様 有限会社リアルホット 様

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先: 庶務部経理課
E-mail : agu_supporters@aoyamagakuin.jp

感謝の気持ちを込めて

2018年度にご寄付いただきました保証人の方々に右記の催し(予定)をご案内いたします。

4月〜7月
6月15日(土)
9月〜12月
11月29日(金)

前期公開講座(優先ご案内)
感謝の集い(昼食会: 青山キャンパスにて全員ご招待)
後期公開講座(優先ご案内)
クリスマス・ツリー点火祭(自由参加)



2口以上の方に腕時計を贈呈

ソーシャルメディア (SNS) 利用にあたって

インターネット上での利用トラブルが増えています。SNSに不謹慎な画像を載せたことによる炎上、個人が特定されたことによるストーカー行為、パソコンの脆弱性を狙ったフィッシングやオンライン詐欺、出会い系サイトでの援助交際、無許可で撮影した写真をSNSにアップしたことによる人権侵害等々。インターネットを利用する上で常に意識しなければいけないのは、世界中の人が閲覧可能であり、一度流れた情報は制御できないということです。十分注意して、利用してください。

SNSを利用するための5カ条

- 1 SNSにおいても**実社会と同じように社会的なルール**を守らなければならない
- 2 SNSに書き込んだ情報は**瞬時に世界に広まるもの**だということを認識する
- 3 友人だけではなく家族や学校など**誰に読まれても問題のない**内容にする
- 4 芸能人の顔写真やアニメのキャラクターを**無断で使用しない**
- 5 他人を**誹謗中傷**したり**悪口**を言ったり読む人が**不快になる内容**を書かない

青山キャンパス&相模原キャンパスに障がい学生支援センターを設置

2016年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」および2018年10月に施行された「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」に対応するため、障がい学生支援センターを開室しました。2018年4月に青山キャンパスの大学15号館2階に、2019年4月には相模原キャンパスのH棟2階に設置することで、本学に在籍する障がいのある学生への全学的な支援体制を構築。障がいのある学生に対する差別の解消を推進し、障がいのある学生が障がいのない学生と同等の教育・研究の機会を得ることができるよう支援します。また高校から大学への移行サポートや大学卒業後の社会参加までを視野に入れた支援も行う予定です。

教職員、学生への障がいに関する啓発活動も重要視します。2018年度は、教



員向けパンフレット『障がいのある学生への支援のポイント』、学生向けリーフレット『障がいのある学生支援のてびき』、『修学支援のご案内』を発行し、本学公式アプリ「らいふいんあおやま」にも掲載してきました。また障がいのある学生が安心して過ごせるようバリアフリーな環境を目指すべく、施設環境の調査、改善の提言も定期的に行っています。

青山キャンパス15号館2階

開室曜日
月〜金(長期休暇中は変更になります)

開室時間
9:00〜11:30 12:30〜17:00

相模原キャンパスH棟2階

開室曜日
月〜金(長期休暇中は変更になります)

開室時間
9:00〜11:30 12:30〜17:00

※詳細は本学ウェブサイトをご確認ください。

CLUB & CIRCLE 43 アナウンス研究会

人前で話す力、人に伝える力を磨く。 会長: 経済学部 経済学科3年 辻 和泰 記

アナウンス研究会には現在、男子10名、女子24名が所属しています。水曜日と土曜日の週2回活動し、発声や腹式呼吸、原稿読みなどの基礎からフリートーク、司会進行などまで、バラエティに富んだ内容で「人に伝える力」を磨き、毎年3回行う「番組発表会」で練習の成果を披露しています。また、2年次からはDJ、RD(ラジオドラマ)、MCの3つのセクションに分かれ、それぞれの内容に特化した練習も行います。

入学式の歌唱指導やミス・ミスター青山コンテストの司会なども私たちが担当しており、学外からの依頼にも積極的に応

えています。企業インタビューを定期的に行ったり、年2回は合宿を実施したりと、活動範囲は多岐にわたっています。

私はアナウンス研究会に入る前は、人前で話すのが苦手でした。アナウンス研究会の活動を通して人前で話すことに慣れてだけでなく、聴き手の立場に立ってどのように話すと分かりやすいかを考えながら話せるようにもなりました。

アナウンサーや声優を目指している人はもちろん、人前で話すことが苦手な人も大歓迎です。少しでも興味がある方は、ぜひ一度見学にいらしてください!





稲生衣代教授インタビュー 「通訳の理論と実践」

稲生衣代 文学部 英米文学科教授

英米文学科では、IEプログラムで英語力を確実にし、6つの専門コースや「PESE」「通訳・翻訳プログラム」で専門性を深められます。稲生ゼミでは、通訳を通じて異文化対応能力を醸成し、幅広い知見を身に付けることを目指します。



Q. ゼミナール(ゼミ)では、どのように授業を行っていますか？

小説、契約書、絵本などを翻訳する際、読み手を意識し起点言語から目標言語へと訳出します。つまり翻訳の目的(スコパス)を意識する必要があり、これを「スコパス理論」といいます。通訳翻訳には様々な理論があり、ゼミでは基本的な理論を学んだ上で、グループごとに研究テーマを設定し、考察を進めます。先行研究を踏まえた上で分析を進め、グループ発表をします。テーマは、医療通訳の倫理、通訳教育、映画の字幕ストラテジーなど多岐にわたります。

理論と同時に通訳実践についても学んでいます。CNNやBBCなどのニュースやスピーチを教材にし、PCやAV機器を備えたCALL (Computer Assisted Language Learning) 教室で通訳に取り組んでいます。ゼミ生全員が一斉に通訳をし、それを録音して皆で聞き、互いの訳を検討します。また同時通訳ブースもあるので、1～2名でブースに入って通訳をし、他の学生たちがそのパフォーマンスを評価することもあります。他のゼミ生の通訳を聞くことで、どうすれば聞き手に分かりやすい通訳につながるのかな

どが分かってきます。

Q. ゼミで力を入れていることは？

ゼミ生には社会全般について理解し、自分の言葉で語ることの大切さを伝えています。例えば英国のEU離脱問題を訳す場合、歴史や政治経済などの背景知識をしっかりと持っていないと適切な訳語が出てきません。また、日本語の豊富な語彙がなければ、適切な表現ができません。

そのテーマにまつわる諸々のことを自分なりに咀嚼して訳してみると、同じ文の訳出でも人によって相当違いが出るものです。いろいろな訳例を比較して、落としどころを探っていきます。そうした学びを重ねることで、どのようなテーマに対しても適切な言葉で通訳できるようになります。

Q. 卒業生の進路は？

卒業生は、金融、商社、観光業界など様々な分野で活躍しています。通訳はもちろん種々のスキルが、就職活動だけでなく、入社後の業務にも生かされているようです。

時々卒業生がゼミを訪れ、ゼミ生にアドバイスする姿は頼もしく思います。今後、プロの通訳者の道を歩んでくれる卒業生が出ることを期待しています。

ゼミ生の声

小竹脩斗さん

文学部 英米文学科4年
長野県立松本県ヶ丘高等学校出身



高校で海外研修に行った経験から、大学では異文化について学びたいと思っていました。2年生のときに稲生先生の基礎演習の授業を履修し、他言語間の橋渡しをすることに魅力を感じたため、稲生ゼミを選びました。

ゼミでは、グループ発表を担当する際、多くの時間をかけて、グループワークのテーマの背景などを下調べします。テーマごとに学びを繰り返すことで、ゼミに入る前とは比較にならないほどの知識が身に付きました。通訳は英語力と、背景にある文化や社会情勢などを良く知ることの両方が大切です。稲生先生の授業では「1を聞いて10を知る」といった全体像を理解する力や、主体性が身に付くので、自分の成長につながります。

グループワークが多く、一緒に研究して訳出をつくり上げていく面白さも知りました。他のゼミ生のアドバイスを受け、訳出はブラッシュアップされます。ゼミ生皆で学び合うので、自然と仲良くなって和やかな雰囲気です。

Lecture Items

同時通訳ブースを備えたCALL教室は、パソコンを利用した効率的な学習を行う教室です。マルチメディア語学教育支援システムを使って、実践的な通訳訓練・グループワークなどを行うことができます。



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

●バックナンバーは本学ウェブサイトでご覧いただけます。

●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**

発行元：青山学院大学 政策・企画部 大学広報課 TEL: 03-3409-8159 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

2019年5月31日発行

※本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます。本誌に掲載する人物の在籍年次や役職、所属や身分などは、原則取材時のものです。©2019青山学院大学